

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年2月22日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ：オープニング、イランとNPT、竹島の日、国民民主党の党大会 【特集】ファークウェイ単独取材		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス</li> <li>・オープニング</li> <li>・東京の60代男性がコロナウイルスに感染</li> <li>・3連休でイベント中止や外出自粛も</li> <li>・コロナウイルスの経済への影響「東日本震災後上回る」見方も</li> <li>・気象庁が春一番を発表</li> <li>・イランとNPT</li> <li>・竹島の日</li> <li>・国民民主党の党大会</li> <li>・横浜市の県営団地で火災</li> <li>・【特集】新型コロナ～市中感染にどう対応</li> <li>・【特集】ファークウェイ単独取材</li> <li>・スポーツ報道</li> </ul>		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング：結論→特に問題なし スタジオで金平茂紀が「ええ、コロナウイルスの感染が広がるさなか、地元の新年会、地元の書道展、地元の消防団長叙勲祝い、3人の大臣たち、小泉進次郎、森まさ子、萩生田光一氏が政府の感染症本部会合に出ずに、そっちのほうが大事だとでかけていました。事態は相当に深刻です。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は22秒であった。放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・イランとNPT：結論→特に問題なし イランとNPTについて以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。 "記者「イランはNPTから脱退するのか？」 ザリフ外相（イラン）「新たな議会在構成されその議会在決めることになる。」 ナレ「イランのザリフ外相は21日、JNNの取材に応じ、NPT核拡散防止条約の脱退をめぐると判断は新たな議会在委ねられるとしました。ザリフ外相は先月イランに対する制裁復活の議論が国連安保理に持ち込まれればNPT脱退を検討すると述べていました。」 このトピックに当てられた時間は33秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・竹島の日：結論→特に問題なし</li> </ul>		

ナレーションによって「韓国が不法占拠している竹島への関心を高めようと、島根県が条例で定めている竹島の日の今日、松江市で記念式典が開かれました。日韓関係の悪化のなか、今年は新型コロナウイルスの感染を懸念してか、韓国の活動家の来日もなく、例年のような混乱はありませんでした。」とのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 23 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・国民民主党の党大会：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「立憲民主党との合流協議が事実上破談となり延期された国民民主党の党大会がひらかれました。合流推進派と反対派の中で、執行部は難しい舵取りを迫られています、市沢記者の報告です。」とのコメントの後に以下に朱記した VTR が取り上げられていた。

"玉木雄一郎「政権奪取に向けて、力を合わせて、頑張ろう！」

市沢牧彦（報告）「新型コロナウイルスの感染拡大の影響で規模を縮小して開かれた国民民主党の党大会、玉木代表は次の衆院選を見据え、すべての資源を投入すると強調し、新型コロナウイルス対策としての予算の組み替え動議や 10 兆円規模の減税など政策をアピールしました。また、執行部を再構築するとして、代表直属のポリシーユニットを新設するなど、党内での存在感の強化にも躍起になっています。」

玉木雄一郎「より一体感の出る体制を築き、来たるべき衆議院選挙に備えていきたいと思っています。」

市沢牧彦（報告）「ただ、肝心の野党勢力結集に向けた立憲民主党との合流協議は暗礁に乗り上げたままです、今日発表した活動協議の中では粘り強く協議を継続していく、としましたが、合流を推進した中堅若手は不満をつのらせ、党内が事実上二分されている状況は変わっていません。ある中堅議員はコロナウイルス問題が広がる中政局的な動きはできない、と沈黙を保っていて、野党再編に向けた動きは一時の勢いは見えません。立憲民主党内からは党同士の合流はもうないだろうとの冷やかな声も聞こえます、玉木氏の掲げる路線が更に支持を得られるのか、これから問われることとなります。」"

このトピックに当てられた時間は 113 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】ファーウェイ単独取材：結論→特に問題なし

スタジオで膳場キャスターの「では次の特集です。日本でも、今年中にサービスが始まると言われている次世代通信 5G。その技術で世界をリードするのが中国の通信機器大手 Huawei です。」というコメントに日下部キャスターが「米中貿易戦争の火種ともなっている Huawei を単独取材 しました。」と応えた後に、CM をはさみつつ以下に朱記したような特集の VTR が取り上げられていた。

ナレ「中国のハイテク企業が集まる深センは、アジアのシリコンバレーと呼ばれる。12 月上旬 Huawei の本拠地に入った。」

日下部「Huawei の巨大なですね 本社ビルが見えてきました。」

ナレ「東京ドーム 42 個分の敷地に、およそ 3 万人の社員が働いている。」

日下部「こうやって Huawei の敷地内を歩いても、会社の中に入るといってより何かこう大学のキャンパスを歩いているような感じですね。歩いている人たちもみんな若いですし、服装もカジュアルです。それと建物がですね、みんなこうわりと低層なんですね。これは高層ビルにするとエレベーターを待つ時間、これが時間の無駄だと言ってですね。こう低層のビルを多くしたと言う話なんですね。」

ナレ「社員の平均年収は公営企業の 5 倍以上となる、およそ 1100 万円。働きぶりは 4 段階で評価され一番低い評価を受けた社員は解雇の対象になるなど競争が激しい。」

日下部「地区によってなんとなくこう建物の雰囲気が違うんですねさっきの本社ビルの辺りのところと、この辺

りは違いますよね。」

Huawei 広報張云澤氏「色々な建物があった方がインスピレーションが・・・」

日下部「あんまりひとつところに、固まらない方がいいんだ。バラバラの方が」

ナレ「取引先をもてなすスペースには、日本が好きなどという創業者の意向で、京都の町屋を移設し家具・鎧などをそのまま運び入れた。ここで日本料理を出すこともあると言う。」

日下部「ここは広報セクション。ヨーロッパ調のオフィスですね。あーすごいや。」

ナレ「Huawei は 1987 年、任正非 CEO がアパートの一室で立ち上げたベンチャー企業だ。」

ファーウェイ任正非 CEO (吹替)「Huawei は世界 170 の国、30 億の人に 30 年にわたってサービスを提供してきた歴史がありますこの間重大な事故や 事件が起きたことは一度もありません」

ナレ「Huawei の主力商品は 世界 2 位のシェアがある携帯端末と、世界 1 位のシェアを誇る基地局だ。国営企業が優遇される中国を出て ライバル社の進出していない ロシアやアフリカで、事業を拡大し、30 年後、12 兆円を売り上げる超巨大企業へと急成長した。」

ナレ「ファーウェイ は年間の売り上げの 1 割、1 兆円以上を技術開発に当てている。深センから車で一時間半離れた研究施設も、一つの町のように巨大だ。カメラが入った」

日下部「こういった洋風の建物があってですね全て研究等だと。こうやっていろんな見学の人がいてですね。ほとんど雰囲気としてはテーマパークですね」

(CM)

ナレ「Huawei 本社がある深センから車で一時間半離れた東莞。120 万平方メートルの敷地に技術開発の拠点がある。ここにはヨーロッパの 12 の有名大学を模した建物が建っている。技術者の創造性を引き出すのが狙いだという」

日下部「本当にこういうことが徹底してるね。これを趣味がいいかどうかは別として徹底しているところは確かだね」

ナレ「敷地内を走る電車。研究施設の間を行き来するため従業員が利用している。」

ナレ「私たちはメディアとして初めて、東莞にある実験施設の撮影を許可された」

日下部「うわー。厳重な。うわっすごい」

ナレ「電波を吸収する素材で作られた壁。外部の電波の影響を排除するための 無響室だ。通信機器の技術開発では電波がどの方向にどれくらい届いているかを計測しなければならない。基地局の開発に不可欠なものだ。」

ファーウェイ社員 (吹替)「真ん中についているのは 5 G 向けのパッシブアンテナというものです。」

ナレ「中にあるのが、次世代通信・5 G の基地局。」

日下部「えーあーやってアンテナがゆっくりと回ってますね。それであのアンテナから発せられる電波が正しく飛んでいるかを、このオレンジ色の輪に組み込まれたですね、探知機で探ると言うことなんだけど、すごい施設ですね。」

(CM)

ナレ「Huawei の巨大な実験施設。無響室。基地局が正しく電波を送受信しているか、リングについている黒い十字のポイントで、観測し、データをとると言う。この映像を電波の無響室を製造販売しているメーカーに見てもらった。」

日本 イーティーエスリンドグレン東川修人代表取締役「非常に大きいです。あの一通常ですと携帯電話ですとかタブレットをですね、そういう人が持ち運びする携帯端末を計るシステムが一般的です。」

日本 イーティーエスリンドグレン東川修人代表取締役「これはあの一、基地局用のサイズだと思います。」

ナレ「世界でも最大規模の実験施設。施設が大きければ、電波が送受信される精度をより正確に測ることができると思う。こうした実験施設のメディアへの公開は、非常に珍しいと思う」

日本 イーティーエスリンドグレン東川修人代表取締役「基本的にはですね、やはり設計開発というところですので、あまり企業様は、公開されてないと思います」

ナレ「アメリカがファーウェイに警戒を強めるきっかけとなったのが、次世代通信 5G の技術だ 5G 通信では何ができるのか。」

日下部「えー こちらではですね 5G に関する展示会が今日から始まってですね、多くの人たちがつめかけています。ま業界の中ではですね、第四の産業革命と言われるくらい、その潜在力に対する期待は大きいわけですけども、実際に私たちの生活はどのように変わるのでしょうか。」

ナレ「5G では、今の 4G と比べ、高速大容量、低遅延、多接続が特徴だ。スマホでアプリをダウンロードすると、4G で 13 秒かかったものが、5G はわずか 4 秒。将来的には、2 時間の映画を 3 秒でダウンロードできると言う」

日下部「私はこの白い車の前に立っています。この車の後ろの車からは多分私の姿は見えないと思うんですけども、2 台目の車の車体モニターにはですね、この白い車の前に立つ私の様子が映っているはずですよ。」

ナレ「前の車からの映像と、自分の車からの映像を、瞬時に合成。リアルタイムに映し出されるのが特徴だ。車体に隠れた歩行者や、対向車が透けて見えるため、事故を防ぐことができる」

ナレ「大容量多接続の 5G 通信だからこそできることだ。ファーウェイの 5G 技術を展示した部屋にカメラが入った。」

日下部「ここはですね、先月オープンしたばかりの 5G ショールームなんだそうです。ちょっと入ってみます。5G is on。 ていうのがありますね。」

ナレ「鉱山の採掘現場から送られてきた映像がモニターに映し出されている。」

技術開発エンジニア（吹替）「危ない現場なので 5G で遠隔操作しています。」

ナレ「大容量、低遅延の 5G 通信の特性を生かし、無人の車両を操作する指示が送られ、ライブ映像が送信されている。」

技術開発エンジニア（吹替）「危険性は低くなるし人件費も抑えられます。」

ナレ「こちらは 5G 通信による遠隔医療システム。レバーを操作すると離れた場所にあるロボットアームが、指示通り針と糸を動かす。」

日下部「おっ、通った。」

ファーウェイ広報「今まで見た中で一番うまい」

技術開発エンジニア（吹替）「人体の手術なので、通信の遅延が起きると大変です。5G 通信でなければいけません。」

ナレ「低遅延の 5G 通信で、レバーの指示が一瞬の遅れもなく針を動かすアームに伝わらなければ、事故になる。この遠隔医療システムは、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、急速武漢に建設された病院にも取り入れられた。」

ナレ「こうした 5G 通信網を結ぶのに必要なのが、基地局だ。ファーウェイはこの基地局の販売で、世界 1 位のシェアを占めている。ファーウェイの強みは、すでにヨーロッパやアメリカで、4G のネットワークのシステムを構築していることだ。」

技術開発エンジニア（吹替）「4G 基地局を 5G 化するのには、同じ場所に 5G の部品を導入することで対応できます。エネルギー消費は 4G の 1/10、消費電力が減るわけですからコストも 1/10 です。」

ナレ「部品の小型化により 他社製品よりも小さくて軽いのが、ファーウェイの基地局の特徴だという。基地局の部品の重さを比較するよう、促された。」

日下部「 あっ、大きさを見てすぐ分かると思うけど、重さも全然違うよね。 こっちはずっしり、こっちはもうまあほんと軽いですね。」

技術開発エンジニア（吹替）「従来は基地局の設置に、四人がかりで 6 時間かかっていた。新しい基地局は、二人で 2 時間で出来ます。」

ナレ「基地局の設置コストは、他社よりも 2 割程度低くなるというのが、 Huawei の売り文句だ。」

ナレ「5 G の 覇権争いで、世界のトップを走る Huawei。それに待ったをかけたのが、アメリカだった。任 CEO の娘、孟晩秋副会長がイランへの経済制裁に違反した疑いでカナダで逮捕されると、アメリカは国内製品のファーウェイへの供給を事実上全面禁止に。さらに友好国にも、ファーウェイ製品の排除を呼びかけた。」

アメリカトランプ大統領（字幕）「ファーウェイはとても危険な。セキュリティの観点からも軍事の観点からも。」

ナレ「だが同盟国の足並みは揃っていない。 アメリカなど 5 カ国は諜報機関の情報を共有するファイブアイズという協定を結んでいる。しかしその一角を占めるイギリスではファーウェイ製の基地局がすでに 35% のシェアを占めている。 数年後には、七割近くになるとみられていた。そのファーウェイ製品の排除を呼びかけられたわけだが・・・」

ナレ「先月末、イギリスは軍事施設などを除き、5 G の通信網の整備でファーウェイ製品の利用を 35% を上限として容認した。」

イギリス・ジョンソン首相（字幕）「イギリスにとっては非常に重要な戦略上の勝利だと思います。この先 5 G の技術は我が国の消費者に利益をもたらすでしょう。その際安全保障上要となるインフラは一切傷つけず、同盟国との情報面での協力体制も危険に晒すことはないのです。」

ナレ「実はイギリスでは国のサイバーセキュリティセンターが、独自にファーウェイ製品の調査を行ってきた。」

ナレ「ネットセキュリティを調査するシンクタンクの代表、ハウエット氏はこう語る。」

アエンブリー・マシュー・ハウエット代表（吹替）「イギリス政府は、2010 年から安全保障会議を設置し、ファーウェイのネットワークで使用されるあらゆる機器を分解して調べ上げてきました。その結果、製品についての懸念材料は、一切見つからなかったのです。」

ナレ「だが今回ファーウェイ製品の利用が制限され、他社製品の導入を迫られることで、携帯電話などの通信事業者に負担が生じると言う。」

アエンブリー・マシュー・ハウエット代表（吹替）「Huawei 規制による事業者の負担は、45 億から 68 億ポンドの間になるとみられています。米中は激しい貿易戦争を展開しており、イギリスはその板ばさみになってしまいました。」

ナレ「ファーウェイ製品を排除しないという決定、アメリカのトランプ大統領は電話会談でジョンソン首相に激怒したと、英米のメディアが報じている。」

ナレ「ハーウェイに反対している保守党のトゥーゲンタット貴議員は」

保守党・トム・トゥーゲンタット議員（吹替）「 Huawei はいろんな点で中国政府との関係が深いと見られています。中国共産党は個人の自由を尊重してはいませんし、ファーウェイをコントロールするやり方は両者が一体だということを示唆しています。」

ナレ「ファーウェイと中国政府の関係は、実際のところどうなのか。任 CEO は取材に対して、こう主張している。」

Huawei 任正非 CEO（吹替）「正しくない指示を受けた場合、絶対に実行しません。 強制されたとしても実

行しません。どうしても駄目なら会社を閉じます。」

ナレ「Huawei の社内には、哲学好きの任 CEO が掲げた社訓が示されている。第二次世界大戦中、敵の攻撃を受けながら帰還したソ連機の写真だ。」

Huawei 広報張氏「いろんな傷を受けて強くなって、英雄というのは磨いてできるものです。」

日下部「孟晩秋さんのことも含めてで？」

Huawei 広報張氏「そうです。」

日下部「ボロボロになっても絶対帰ってくると、すごいある意味。すごいですね。」

ナレ「この広告に使われているのは、任 CEO の好きなバレリーナの足の写真だ。」

広告（吹替）「スポーツにはその見た目とは違う正視に耐えがたいもうひとつの側面がある」

ナレ「傷ついた機体や、足のつま先をアメリカの攻勢を受ける、自社の姿にたとえていると言う」

ナレ「アメリカが進めるファーウェイ製品の排除を どう受け止めているのか。広報部門の副総裁であるそうしが取材に応じた。」

Huawei 広報部門宋凱副総裁「今日に至るまでアメリカ政府は人々を納得させられる Huawei のネットワークセキュリティに対する違反行為、または顧客のプライバシーを漏らした具体的な実例を一つも公表できていません。今アメリカが行政・外交の手段を使って、5G におけるファーウェイの活動を妨害しています。それは自由競争の原則と、方法論に完全に反しています。」

日下部「アメリカのね安全保障に対する懸念の中には、やっぱり中国の中国という国の体制にあると思うと思うですね、あのやはりこう、中国政府あるいは、共産党が、出した方針に対してはなかなか公企業としてはですね、反対しにくいんじゃないかという懸念があると思うんですね。」

Huawei 広報部門宋凱副総裁（吹替）「CEO が既に表明していますが、何か要求された時たとえ会社を閉じることになっても、お客様の秘密プライバシー、データを渡すことはありません。」

ナレ「各国からの懸念を払拭するため、思い切った手を打つことも考えていると言う。」

日下部「任 CEO はですね最近、行われたメディアとのインタビューの中でですね、Huawei の技術を、他の企業に提供しても良いと、話していますね。その真意というのはどこにあるんですか。」

Huawei 広報部門宋凱副総裁（吹替）「具体的には、5G の様々な技術、ほぼ全ての技術をライセンス供与という形で、アメリカの企業に提供していくという内容です。なぜアメリカがファーウェイにここまでの圧力をかけているのかと、議論されていますが、その理由のひとつにアメリカには 5G ネットワークを製造・販売する企業がないからという見方があります。これがアメリカにとって今後のハイテク覇権の懸念材料になっているのではないかと思います。」

VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し広げられた。

膳場「Huawei は今回、あのこれまで公開されたことない実験施設まで見せていますけれども、これってあの米中戦争の、米中貿易戦争のさなか、ここまで取材を受け入れるというのはどんな思惑があるんでしょうか。」

日下部「やはりこう日本でブランドイメージを良くしたいと言う、広報戦略の一環だと思いますが、実はこの貿易戦争でファーウェイはですね、部品の調達先をですね、アメリカから日本にシフトしているんですね。年間 1 兆円を超える額だと言われているんですけども、まあそういった意味でも日本との関係を大切にしたいのかなと思いますね。」

金平「VTR を見ててね、ファーウェイで働いている人たちの意識ってどうでした？その愛国心が強いんですか？もっとう自由なんですかね？」

日下部「ええっとね、まあ国有企業が幅をきかせている中国にあって、深センにはこう自由な企業風土というも

のがあるって、そこに集う若者はもちろん強い中国人としての、誇りがあるんだけどやはりグローバルな考えを持っているんですよね。あの創業者の任 CEO は、政府の理不尽な要求には応じないともしそういうことになったら会社を閉じると言っているんですけども、はたしてどうでしょうか。共産党が その気になれば、会社を乗っ取ることだってできちゃうわけでしょ。まあ安全保障上の危惧っていうのはなかなか拭い去ることはできないんですけども、もしですね、企業から自由なですね社風が失われることになれば、そういった若者たちどうするかと考えると、多分ファーウェイを離れてですね、世界にこう活動の場を求めていくんじゃないかなと、という感じもしましたね。彼らからは見てると。」

膳場「以上。特集でした」

この特集に当てられた時間は 1249 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

特になし